

第5回 観正能

若獅子の会

WAKA JISHI NO KAI



平成27年

3月14日(土) 開演 午後1時(開場 12時)
会場 名古屋能楽堂

主催 NPO法人 名古屋能楽振興協会

若獅子の会

チケット料金(前売)

指定席 4,000円 自由席 3,000円 学生自由席 2,000円

※当日は500円増

◆チケットのお申し込み

◎お電話にてお申し込みの方

◇NPO法人 名古屋能楽振興協会 事務局
TEL052-734-6192

◎郵便にてお申し込みの方

下の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、
切り取って封入の上ご投函ください。
※後日、チケットと代金振込用紙をお送り致します。
◇NPO法人 名古屋能楽振興協会 事務局
名古屋市中東区一社3-162

◎FAXにてお申し込みの方

下の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、
そのまま送信してください。
FAX052-705-1585

◎インターネットにてお申し込みの方

◇久田勘鷗ホームページ
www.hisadakan-oh.com

◆前売チケット取扱プレイガイド

- ❖名古屋能楽堂 TEL052-231-0088
- ❖チケットぴあ TEL0570-02-9999(Pコード: 441-505)
お近くのチケットぴあのお店、サークルKサンクス、セブン-イレブン各店舗でも直接お買い求めいただけます。
- ❖プレイガイド(三越・愛知芸術文化センター・中日ビル1階中日サービスセンター)
- ❖名古屋市文化振興事業団チケットガイド(ナディアパーク8階)
TEL 052-249-9387(平日9:00~17:00/チケット郵送可)

◆お問い合わせ

- ❖NPO法人 名古屋能楽振興協会事務局
TEL052-734-6192 FAX052-705-1585
- ❖名古屋能楽堂 TEL052-231-0088

※上演中の写真及び動画撮影・録音・ビデオ撮影は
事前に許可を受けた方以外はご遠慮下さい。
※未就学児のご入場はお断り致します。



名古屋能楽堂 (名古屋城正門前)
名古屋市中区三の丸1-1-1

◆主催／NPO法人 名古屋能楽振興協会 ◆後援／愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市、名古屋市教育委員会

---キリトリ---

若獅子の会 チケットお申し込み

〈FAX または郵便用〉

FAX 052-705-1585

ふりがな						お電話 番号		
お名前								
ご住所	〒							
指定席 前売 4,000 円	枚	自由席 前売 3,000 円	枚	学 生 前売 2,000 円	枚			

出演者Profile

(五十音順)

① 生年月日 ② 在学学校又は出身校 ③ 師家又は師匠

シテ方観世流



うえだ あきたか
上田 顕崇
① 1992/12/26
② 関西学院大学4年
③ 上田 貴弘



うえだ りょうき
上田 嶺貴
① 2000/3/10
② 私立滝川中学校3年
③ 上田 貴弘



うめわか ゆういちろう
梅若 雄一郎
① 1996/4/16
② 甲南高等学校3年
③ 梅若 基徳



かさだ ゆうき
笠田 祐樹
① 1990/9/3
② 関西学院大学卒
③ 上田 貴弘



さいいち よう
生一 庸
① 1998/5/1
② 立命館高等学校1年
③ 生一 知哉



こばやかわ やすき
小早川 泰輝
① 1990/11/7
② 東京藝術大学卒
③ 浅見 真州



じゅげ ちさと
樹下 千慧
① 1987/2/27
② 仏教大学卒
③ 林 喜右衛門



たけだ たかふみ
武田 崇文
① 1989/12/6
② 早稲田大学卒
③ 武田 尚浩



ひさだ かんきちろう
久田 勘吉郎
① 1994/11/28
② 東京藝術大学2年
③ 橋岡 慈観



やまなか かげあき
山中 景晶
① 1992/5/6
② 東京藝術大学3年
③ 山中 逞晶



うえだ たかひろ
上田 貴弘
1957年生まれ
シテ方観世流 上田照也の長男として神戸に生まれる
先代観世流家元 二十五世観世左近のもと 東京にて修行する
現在 二十六世 観世清和に師事
神戸にて 上田門下会・長田神社・薪能・姫路城薪能・明石薪能等を
主催、企画し 関西を中心に多くの演能を続ける
平成十八年 神戸ブルーメール賞を上田兄弟会にて受賞
ヨーロッパ、アメリカ、インド等 海外公演に多数参加
神戸市長田区のは田能楽堂代表
重要無形文化財総合指定保持者



ひさだ かんこう
久田 勘鷗
1947年生まれ
シテ方観世流 久田秀雄(重要無形文化財総合指定保持者)の次男と
して名古屋に生まれる
父 久田秀雄、上田照也師、及 浦田保利師に師事
大阪文化祭賞奨励賞受賞、神戸ブルーメール賞受賞、名古屋芸文
奨励賞受賞、名古屋演劇ペンクラブ賞受賞
主に中部地区にて多数舞台を企画、演能
久田観正会主宰、NPO法人名古屋能楽振興協会顧問
重要無形文化財総合指定保持者

出演者Profile

(五十音順)

① 流派 ② 生年月日 ③ 在学校又は出身校 ④ 師家又は師匠

囃子方



かきはら たかのり
柿原 孝則
① 高安流大鼓方
② 1994/10/23
③ 東京藝術大学2年
④ 柿原 崇志、柿原 弘和



かわむら ゆういちろう
河村 裕一郎
① 石井流大鼓方
② 1994/6/30
③ 愛知工業大学2年
④ 河村 総一郎、河村 眞之介



さわだ あきら
澤田 晃良
① 観世流太鼓方
② 1993/9/15
③ 東京藝術大学3年
④ 観世 元伯



しみず かずと
清水 和音
① 大倉流小鼓方
② 1994/5/9
③ 東住吉高等学校卒
④ 大倉 源次郎



やまむら ゆうこ
山村 友子
① 藤田流笛方
② 1992/1/25
④ 藤田 六郎兵衛

脇方



おか みつる
岡 充
① 高安流ワキ方
② 1985/11/30
③ 同志社大学卒
④ 飯富 雅介



はしもと えい
橋本 叡
① 高安流ワキ方
② 1994/8/24
③ 鈴鹿医療科学大学2年
④ 飯富 雅介

狂言方



いのうえ そうだい
井上 蒼大
① 和泉流狂言方
② 2004/4/23
③ 名古屋市立小坂小学校4年
④ 井上 松次郎



のむら のぶたか
野村 信朗
① 和泉流狂言方
② 2001/3/19
③ 名古屋市立丸の内中学校2年
④ 野村 又三郎



はしもと つかさ
橋本 宰 (脇方高安流準職分)
1965 年 10 月 6 日生まれ
平成 5 年宗家預かり故西村 欣也師に弟子入り。
十四世宗家高安 勝久師、飯富 雅介師に師事。
能楽協会名古屋支部所属。名古屋市在住。

本日の演能の解説とレクチャー

仕舞

敦

放下

鞍馬天狗

盛 僧
キリ 小歌

笠田 祐樹

上田 顕崇

上田 嶺貴

生一 庸
久田 勘吉郎
樹下 千慧
武田 崇史
梅若雄一郎

地謡

仕舞

屋

小松

鍛

冶虫島
キリ キリ

生一 庸

樹下 千慧

武田 崇史

上田 嶺貴
上田 顕崇
小早川 泰輝
笠田 祐樹
山中 景品

地謡

独調

田

村

久田 勘鷗

河村裕一郎

仕舞

花

筐

狂

上田 貴弘

地謡

生一 庸
笠田 祐樹
久田 勘鷗
上田 顕崇

(休憩二十分)

能

小早川 泰輝

梅若雄一郎

ツレ 頼光
トモ 太刀持
ツレ 胡蝶

山中 景品

シテ蜘蛛ノ精 久田勘吉郎

土蜘蛛

ワキ ツレ 従者

橋本 宰

ワキ 独武者

岡 充

ワキ ツレ 従者

橋本 叡

大鼓

柿原 孝則

太鼓

澤田 晃良

小鼓

清水 和音

笛

山村 友子

間

早打 野村 信朗
早打 井上 蒼大

後見 上田 顕崇
久田 勘鷗

地謡

上田 嶺貴
生一 庸
笠田 祐樹

武田 崇史
上田 顕崇
樹下 千慧

附言

(終了予定 四時頃)

「若獅子の会」について

NPO法人名古屋能楽振興協会
は、事業の目的を次のように掲げて
おります。

一、日本の伝統芸術・能の振興・普及
二、演能者の技両の向上・研鑽の支援
三、演能を行う後継者の育成の支援

以上の目的を達成するために諸
事業活動を行っており、今回の第
五回観正能「若獅子の会」は、正
に若き後継者の演能の場であり、
その技両の向上・研鑽を実践する
機会でございます。

演じる者ばかりでなく、是非、
ご鑑賞者も若い世代の方々に気軽
にご来場いただきたくお願い申し
上げます。

土蜘蛛(つちぐも) 五番目物

【あらすじ】源頼光は、このところずっと
健康がすぐれず病床にあります。典薬
頭(医薬をつかさどる役所の長官)から
の薬をもつて、胡蝶という侍女が見舞に
やつて来ます。すっかり気の弱くなつてい
る頼光に、治療さえすれば直りますと、
胡蝶は慰めの言葉を残して退出しま
す。すると、いつの間に来たのか、病室の
隅に一人の僧が佇んでいます。そして、
「いかに頼光、御心持は何と」と尋ねな
がら近づいて来ます。頼光が、深夜に及
んで訪ねて来た僧の名を思い出しかね
ていると、「我が背子が来べき宵なり、
ささがにの蜘蛛のふるまいかねてしるし
も」という古歌を詠じたかと思うと、た
ちまち蜘蛛の本性を現し、千筋の糸を
投げかけます。頼光は枕元にあった刀
で斬りつけ、たしかに手応えあったと思
いましたが、その姿は消えてしまいま
す。へ中入へ物音におどろいて駆けつけた
警固の独武者に、頼光はその間の事情
を物語ります。独武者があたりを見る
と、おびただしく血が流れているので、
その血のあとをたどって化生の者を退
治に出かけることにします。独武者の
下人が忙しげに登場し、いよいよ頼光の
家来たちが土蜘蛛退治に向かう旨を
告げます。身ごしらえをした独武者は、
郎党を引きつれ出発し、古塚を見つけ
ます。力を合わせてその塚を突き崩す
と、中から土蜘蛛が姿を見せ、糸を繰
り出して退治に来た武者を悩まします
が、遂に斬り伏せられます。

(能楽手帖より)